

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会 第2回学校運営部会

（ 日 時 令和5年2月9日（木）
午後6時～
場 所 大和コミュニティセンター ）

開 会

1 部会長あいさつ

2 協議

（1）協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～

3 助言

閉 会

【経過】

- （1）1月11日（水） 第1回学校運営部会
- （2）1月25日（水） 第2回執行委員会
- （3）1月31日（火） 子どもワークショップ テーマ「目指す学園像」
- （4）2月 1日（水） 第3回ワークショップ
テーマ「協働的な学び ～小学校の再編について～」
- （5）2月 3日（金） 施設一体型小中一貫やまと学園の場所について（報告書）
を教育長に提出

【配付資料】

- 資料1 協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～.....P 1
- 資料2 第3回ワークショップのまとめ.....P15
- 参考資料 第3回ワークショップ アンケート結果.....P17

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会 学校運営部会名簿（20名）

番号	氏名	区分	所属等	備考
1	槻館 憲靖	学校運営協議会	塩田小学校学校運営協議会会長	副部会長
2	國澤 宗厳	学校運営協議会	三輪小学校学校運営協議会会長	
3	堅多 敦之	学校運営協議会	岩田小学校学校運営協議会会長	
4	大冨 哲也	学校運営協議会	束荷小学校学校運営協議会会長	
5	的井 勝巳	学校運営協議会	大和中学校学校運営協議会会長	
6	田中 道太郎	保護者	塩田小学校 P T A 会長	
7	大田 敏之	保護者	三輪小学校 P T A 会長	
8	井本 眞明	保護者	岩田小学校 P T A 会長	
9	藤井 伸浩	保護者	束荷小学校 P T A 会長	
10	網本 雅彦	保護者	大和中学校 P T A 会長	
11	吉田 哲朗	教職員	塩田小学校校長	
12	品川 和之	教職員	三輪小学校校長	
13	磯部 祥生	教職員	岩田小学校校長	
14	福田 康子	教職員	束荷小学校校長	
15	河本 政之	教職員	大和中学校校長	部会長
16	竹本 優子	教職員	塩田小学校（小中一貫教育担当）	
17	片山 留奈	教職員	三輪小学校（小中一貫教育担当）	
18	田中 崇江	教職員	岩田小学校（小中一貫教育担当）	
19	石田 博文	教職員	束荷小学校（小中一貫教育担当）	
20	深田 知子	教職員	大和中学校（小中一貫教育担当）	

これまでの協議のふりかえりと今後の予定

	ワークショップ	部会	執行委員会
学園の場所	12/21 ■学園の場所として大切にしたいこと ⇒9つの選定基準 ■3候補地のいいところ	1/11 ■3候補地の懸念される事項・課題	1/25 ■部会のとりまとめ内容を協議⇒市に報告 ※本日配布資料
協働的な学びの確保 ～小学校の再編について～	2/1 ■再編の考え方や現在の取組を共有、意見交換	2/9 ■WSの意見を整理し考察を深める	2/15 ■部会のとりまとめ内容を協議⇒市に報告

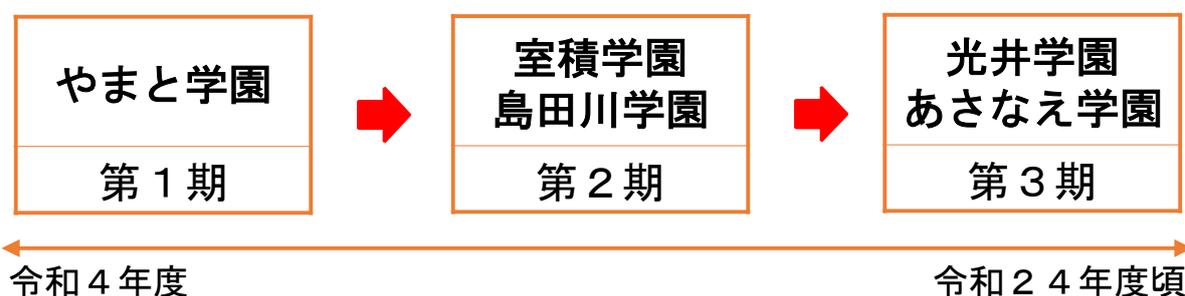
1 小学校の再編について

【施設一体型小中一貫ひかり学園の新設に係る方針（令和4年3月）】

～具体的な方針の1つとして～

■複式学級が存在する学園については、学園の実情を踏まえ、早期の解消を目指します。

〈おおむねの整備スケジュール〉



1 小学校の再編について



1 小学校の再編について

区分	パターン① 合同学習の日常化	パターン② 小学校先行再編
【学び】 ●協働的な学び	確保○	確保◎
【児童】 ●新たな生活への適応や学習環境の安定等への配慮	必要	
【教職員】 ●教職員数（現状に対して）	維持	減 ※新しい学校規模に応じた配置
【地域連携】 ●地域との連携・協働	これまで同様	新たな地域連携等検討
【組織】 ●PTA ●学校運営協議会	これまで同様 これまで同様	新たなメンバーで構成 新たなメンバーで構成

施設一体型小中一貫やまと学園準備委員会
第2回学校運営部会

学校で行っている 「合同学習」について

令和5年2月9日 大和コミュニティセンター
光市立塩田小学校 吉田哲朗

塩田小・東荷小で行っている複式指導

【塩田小5・6年生 国語科 授業風景】

5・6年学級担任



6年児童

参観者

5年児童

主に国語科・算数科において、複式指導を行っている。
※同一教室において2学年が同時に異なる内容を学習する。



塩田小・東荷小で行っている複式指導

【塩田小3・4年生 算数科 授業風景】

《3年生の直接指導中》



4年生の学習を「見守り型支援」



《4年生の直接指導中》



3年生の学習を「見守り型支援」

少人数・複式指導のよさ



◎きめ細かな個別指導ができる。



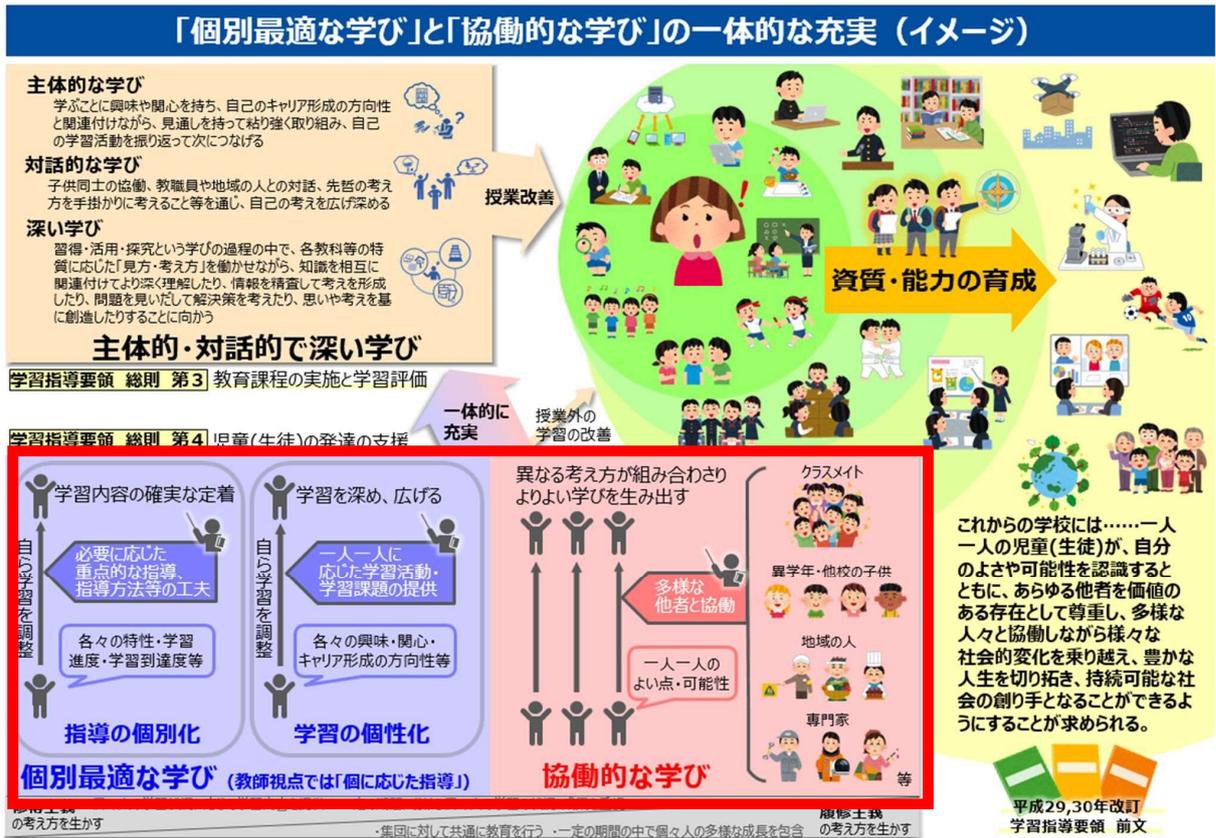
◎学年を越えた学び合いができる。
【下学年】上学年からの助言が受けられる。
【上学年】下学年への説明をとおして学びを確かに行うことができる。



◎自分たちで学習を進める力がつく。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的推進

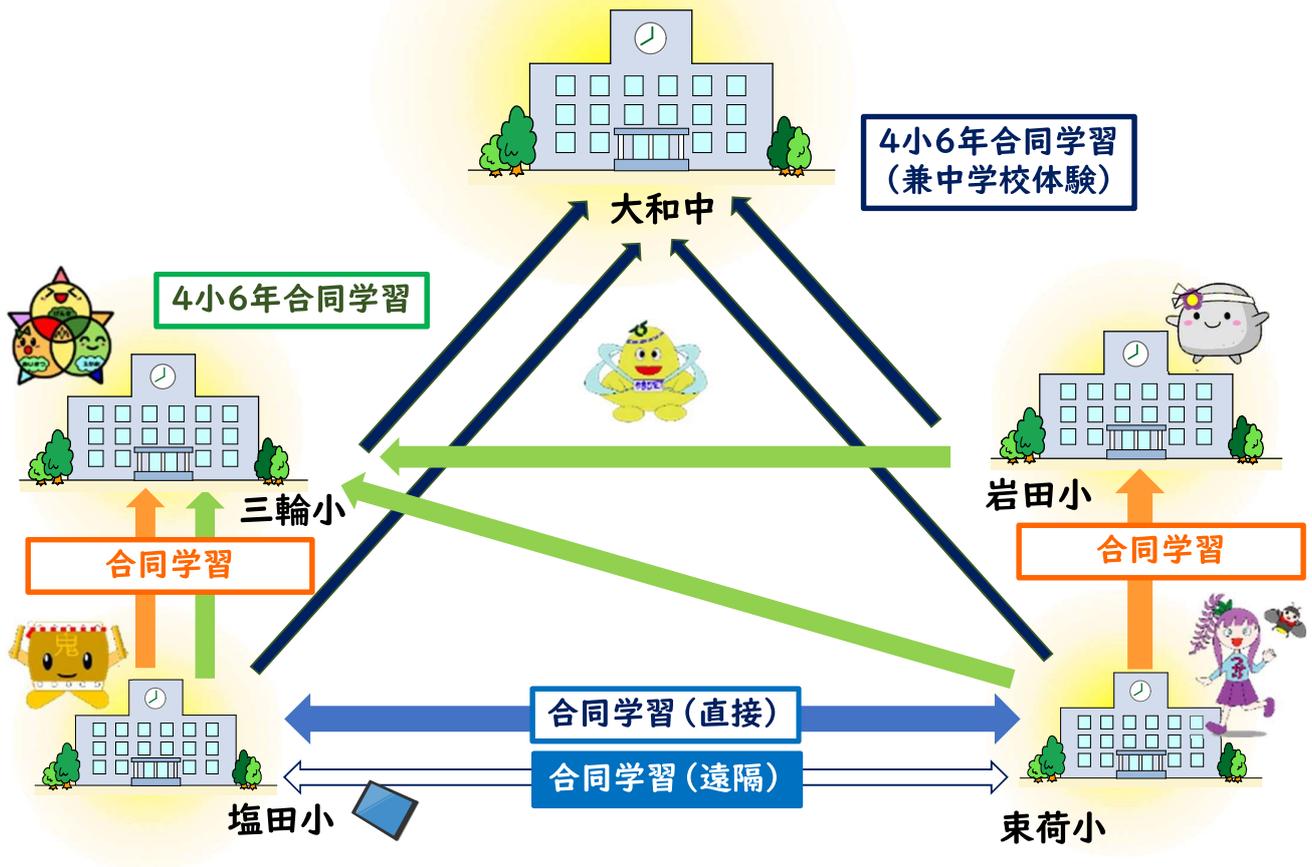


これまでの塩田小・三輪小・岩田小・東荷小の合同学習

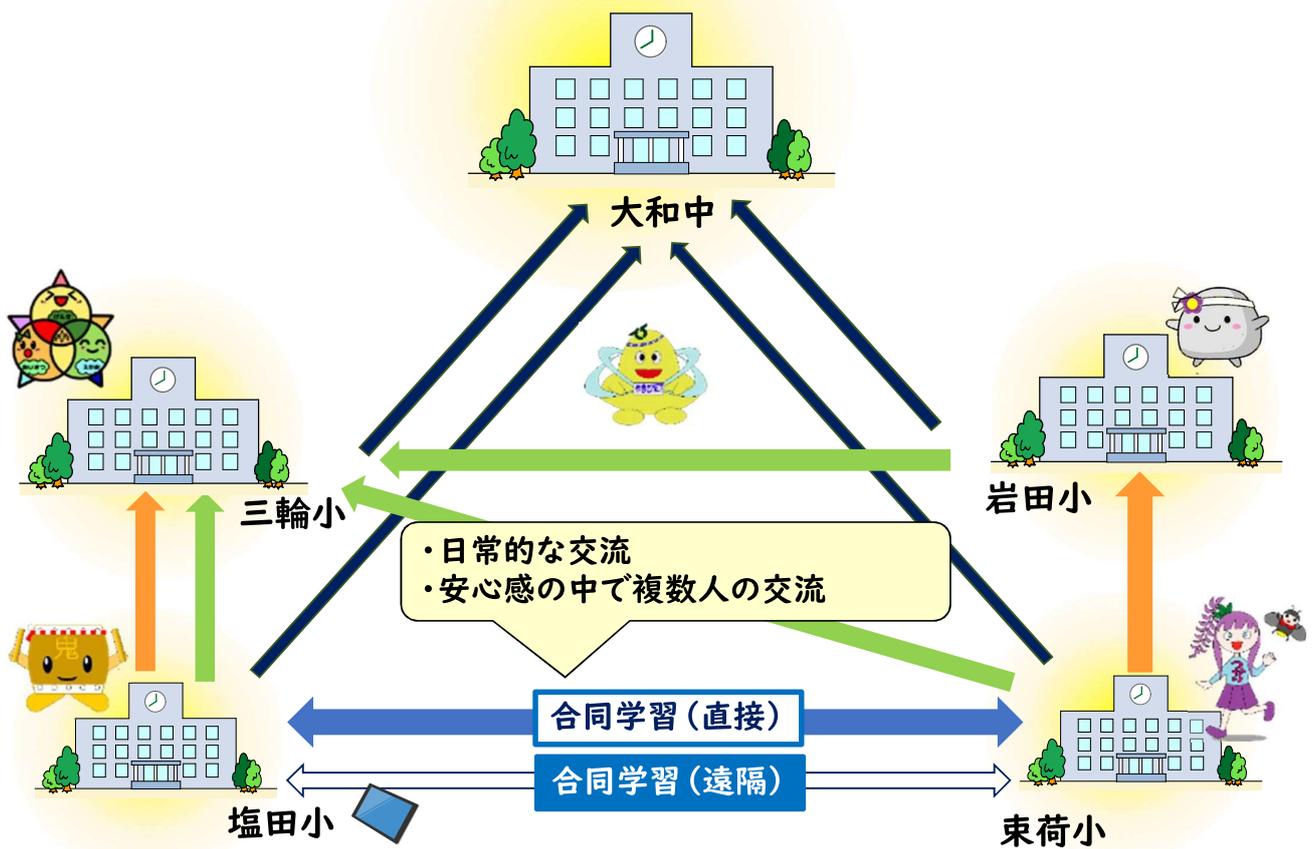


宿泊学習や校外学習などイベント的なものが中心

令和4年度のやまと学園 合同学習の取組



令和4年度のやまと学園 合同学習の取組



塩田小・束荷小【合同学習】



複式学級を解体して、同学年での単式授業

塩田小・束荷小【合同学習】



体育(水泳)
体育(球技)



総合(発表)
音楽(合唱)



多人数でしか味わえない楽しさや学びの深まり

塩田小・束荷小【合同学習】



↑
束荷小

【塩田小側】

【束荷小側】

↑
塩田小



遠隔合同学習で、対面での合同学習の補完

塩田小・束荷小【合同学習】



はじめの会



マイクロバスで出発



1・2校時



給食時間



3・4校時



業間時間



昼休み時間



5・6校時



タクシーで帰校

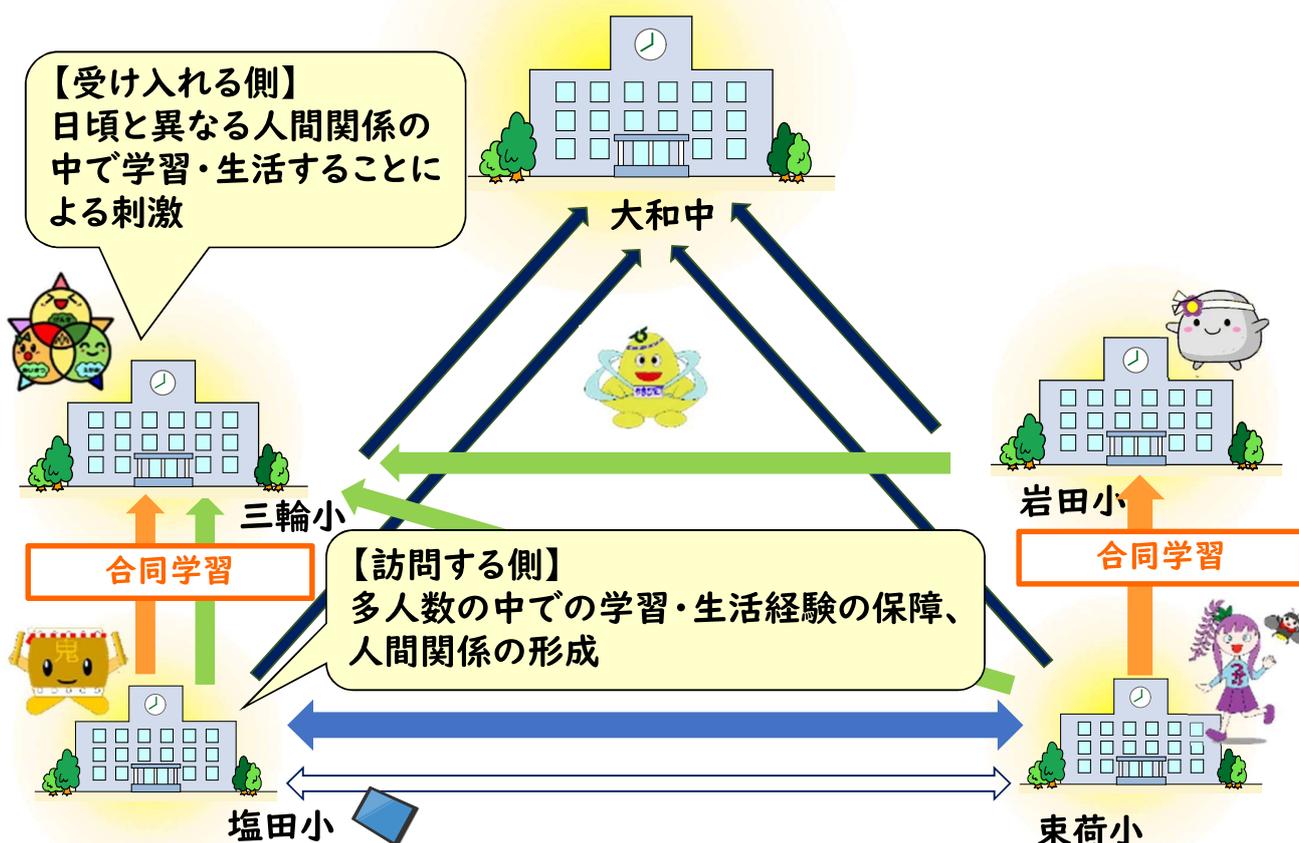
1日合同学習（1校時から5・6校時まで）

塩田小・東荷小【合同学習】

今日、東荷小と一日交流をしました。私が一番心に残ったことは昼休みです。いつもよりたくさんの方がグラウンドに出ていてとてもにぎやかで楽しかったです。その他にも東荷小の5・6年生と道徳をしたり、体育や国語などをしました。道徳はいつもよりたくさん意見が出て考えが広がりました。体育はみんなでバスケットボールをしました。いいパスができたとき、とてもうれしかったです。給食では石田先生がたくさんおかわりをしていてとてもびっくりしました。また、いろいろな学校の人と交流をして仲良くなりたいです。(塩田小5年)

1日合同学習(1校時から5・6校時まで)

令和4年度のやまと学園 合同学習の取組



塩田小・三輪小【合同学習】



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生



6年生



特別支援学級



給食時間



昼休み時間

1日合同学習（2校時から5・6校時まで）

塩田小・三輪小【合同学習】



わたしが三輪小交流で学んだことは二つあります。
一つ目はいろいろな考えがあったことです。塩田小では人数が少なく、いろいろな人の意見が分からないけど、いつもとはちがう人と勉強してみると、たくさんの考えがあって、とてもおもしろかったです。二つ目は…
(塩田小5年)

今日、全校で三輪小学校と交流しに行きました。業間や昼休みなどにはサッカーにさそわれてとてもうれしかったです。久しぶりに学校でサッカーができたことが、とてもよかったです。時間があっという間に過ぎたように感じました。中学生になったらいっしょになるから楽しみです。また行きたいです。(塩田小6年)

石城太鼓をたたいてみると、実際はむずかしいことが分かりました。授業で塩田小とやるのは不思議な感じで楽しかったです。またいっしょに交流してもっと遊びたいです。(三輪小5年)

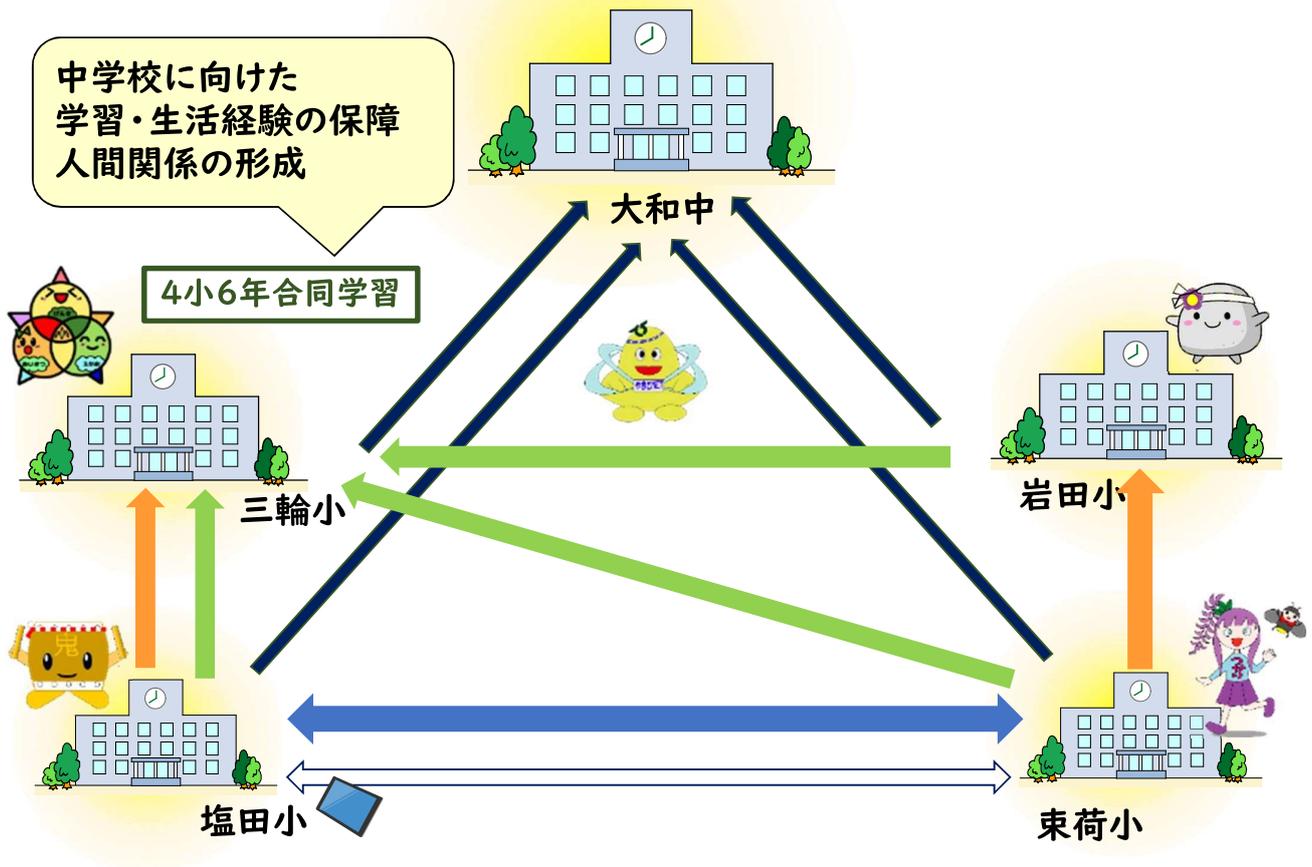
今日の授業でみんなで考えたり、やってみたりしてとても楽しかったです。石城太鼓では最初聴いたときにとっても迫力があってすごいと思いました。聴いた後、体験時間のとき、近くで聴くととても音が多くてびっくりしました。(三輪小5年)

東荷小・岩田小【合同学習】

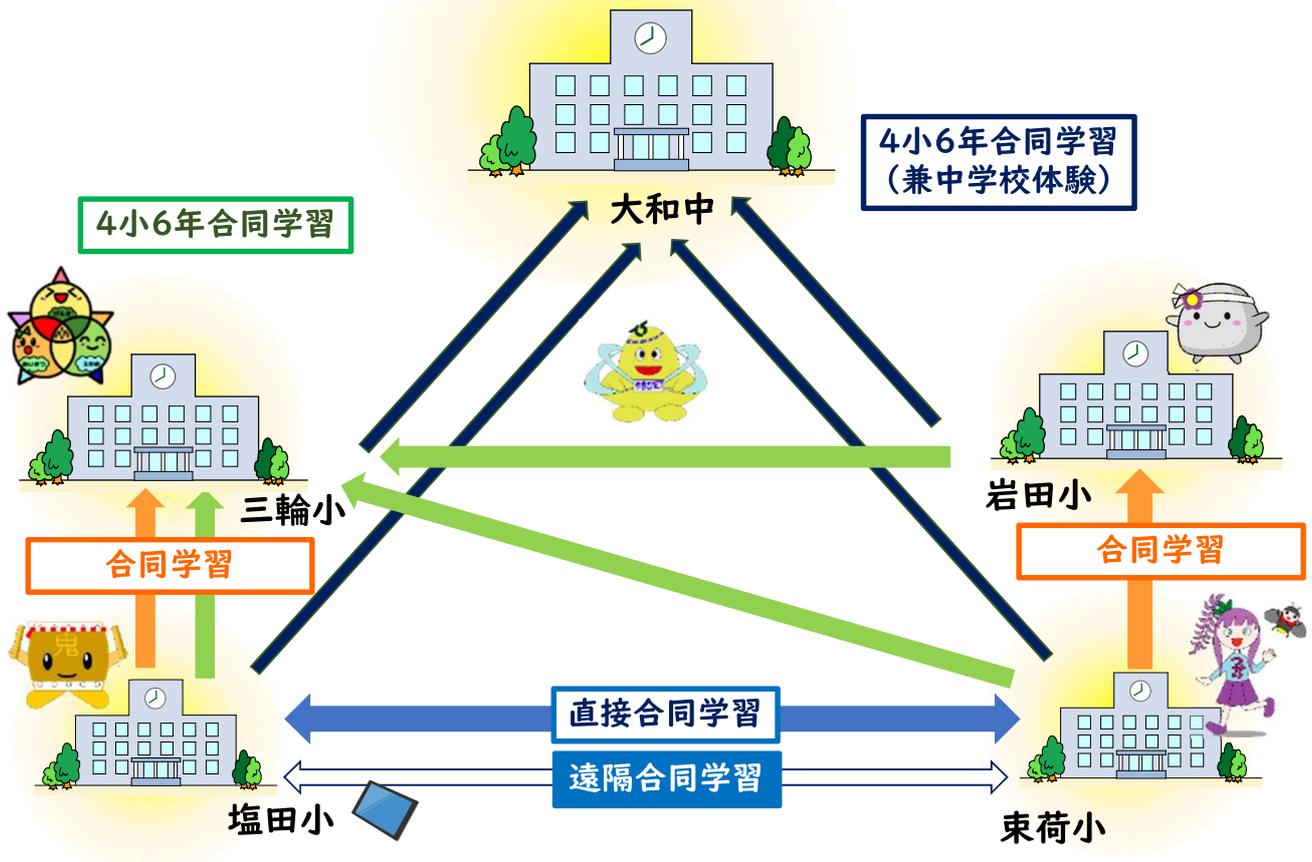


1～4年生：1日、5・6年生：3日間

令和4年度のやまと学園 合同学習の取組

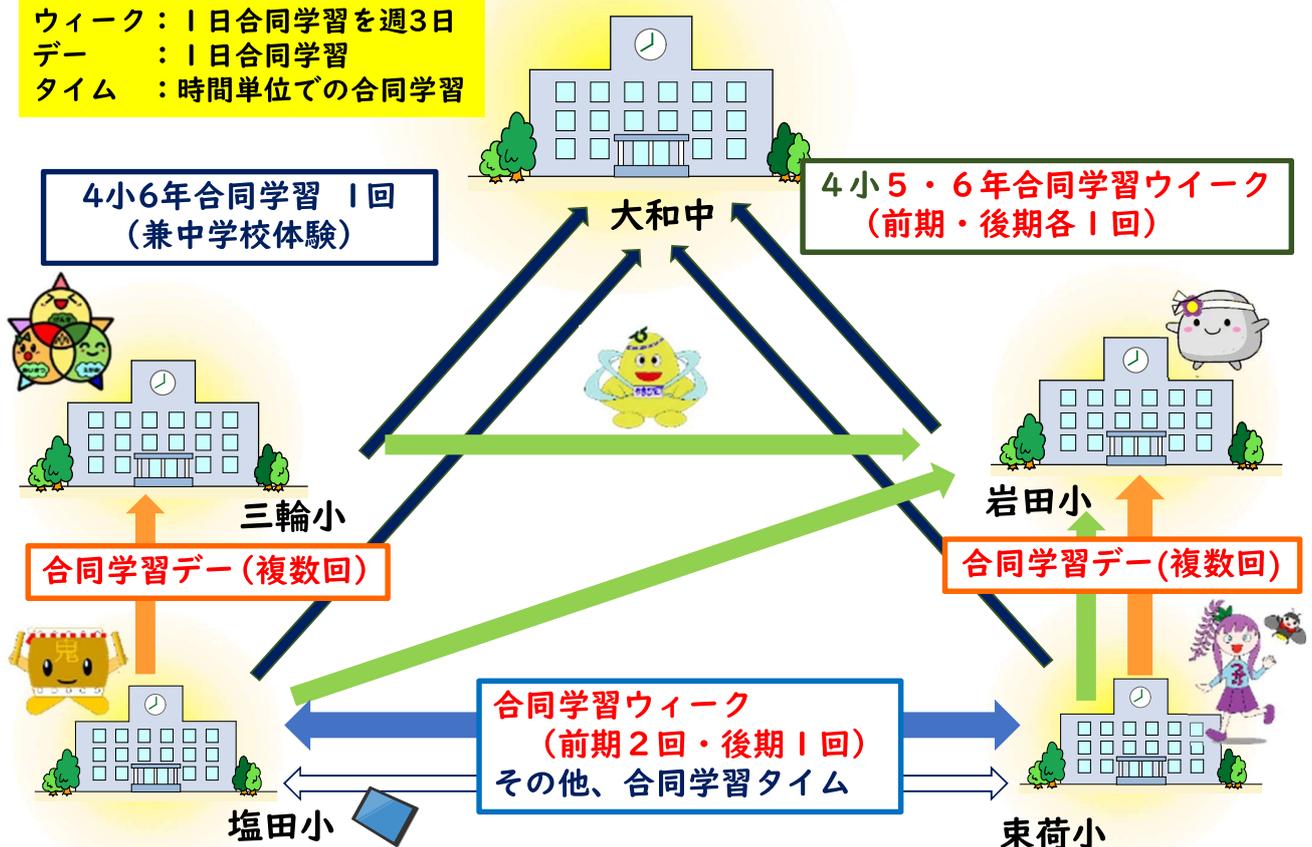


令和4年度のやまと学園 合同学習の取組



令和5年度のやまと学園 合同学習の取組

ウィーク：1日合同学習を週3日
 デー：1日合同学習
 タイム：時間単位での合同学習



令和5年度のやまと学園 合同学習の取組

【円滑に進めるための課題】

- 各校の生活時程の調整
- 各校の指導計画の調整
- 交通手段、机・椅子の確保
- 教職員間の打ち合わせの時間の確保



「子どもの学び」を第一義において



第3回ワークショップ (R5. 2. 1) グループ発表 (まとめ)

	発表内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校同士がこんなに合同学習していることに驚いた。 ●合同学習のメリットが最初にたくさん出た。 ●4小が1小になったら、先生の数が減るのではないか。 ●今後に向けて、4小の状況をしっかり把握してほしい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の歴史はちゃんと伝わっていくのだろうか。このあたりは今、やまと学園として動き出しをしている。 ●一人ひとりの個性や資質をどう引き出していくか、が重要。 ●子どもを第一義に考えたとき、パターン②で小学校が先にくっついた方が、やりやすいのかな、というところで話が終わった。
3	<ul style="list-style-type: none"> ●岩田・三輪は、交流が少なく、そもそも交流があることをご存じない。 ●4小学校を1つに再編するには、文化の違いをうまく水合わせしなければ。 ●教員の負担が大きいのので、教育委員会のフォローをしっかりと。 ●4小がいきなり一緒になって、先生がボンと減ったら、あまりうまくいかないのではないか、というのが最終的な結論になった。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●合同学習を充実するには、環境が整っていないといけない。 ●一番は子どもたちが、毎日いろんな子と接することが、楽しい時間になるのではないか。 ●地域の方のかかわりも増えるし、文化を学べるチャンスも増える。 ●4小が1小になることが良いのではないか、という話になった。
5	<ul style="list-style-type: none"> ●少ない人数だと、どうしてもできない授業(体育)がある。 ●東荷神舞や石城太鼓など地域の伝統芸能が、4小から1小にしたとき、どうなっていくかが課題として出た。 ●願いとしては、早めに合同化して一緒に子どもたちが学べること。
6	<ul style="list-style-type: none"> ●何よりも、もうすでに学級が1人の学校もある。1日も早く、多くの子どもたちと一緒に関わりながら授業を、という保護者からの願いがあった。 ●それを考えたら、やまと学園はすぐにでも開始した方が良いのではないか、という意見でまとまりつつあった。
7	<ul style="list-style-type: none"> ●合同学習について、地域の課題は卒業生が出身校への思いが強いこと、児童の課題は「自分は〇〇小学校だから」という児童自身の壁をどうするか。 ●願いとしては、早めにパターン②に移行する方が良いのではないか。今複式のところは、早目に複式を解消することが大切ではないか。

第3回ワークショップのまとめ 合同学習と4小再編の比較検討

	区分	合同学習	4小再編
メリット・よさ	学び	いろいろな先生の授業を体験できる 小小の交流が中学校体験に生きた 1日の合同学習は良い(もっと増やすべき) 時々「合同」で刺激がある いつもと違うメンバーで体育や音楽ができる 大きな行事を合同で開催(陸上記録会など)	複式学級を解消できる 学習の進捗が同じ 学び合いの充実 落ち着いて学習できる
		多様な見方・考え方を聞ける クラス内に適切な人数がいる 同学年で授業できる 人数が多ければできる授業がある(体育・ゲーム・合唱など)	
	児童	「昼休み」が一番心に残った(休み時間も交流できる) 合同学習で相手に配慮する気持ちが育つ 先生が多いので児童をフォローしやすい 気が楽 仲良くなるスピードが早い(小さい学校同士) 新たな発見、緊張感	スクールバスなら安全に通学できる 一体感がある 同学年の人数が多い方が違いを認め合える場がふえる 小学校で最年長を体験できる
		友達ができる・増える たくさん人がいると元気が出る 競争心の確保	
	教職員	教員が多い	教員の負担が減る
	地域連携		伝統文化や地域の行事に4小の子が関われる 地域の力を借りることができる
	その他	備品の数が多い	
デメリット・懸念・課題	学び	回数が限られている 教科の進度を合わせる 時程を合わせる 合同学習の課題の整理 イベント・行事が合同学習のメインになる(日常の学習が大切)	岩田小と三輪小を一緒にするメリットを示すことが必要
	児童	移動時間による授業時間への影響 直行直帰できると良い 小規模校は、縦のつながり(異学年)は強いが、横のつながり(同学年)は弱い お客さん感がある 慣れるまで時間がかかる 児童自身の所属意識(「自分は●●小学校なのに」という思い)	児童数に差があるので、少ない学校の児童への配慮が必要 徒歩通学できない子どもが増える スクールバスが必要になる 光っ子サポーターなどフォローが必要
	教職員	教員の負担が大きい 学習の指導はどちらの学校の先生が担当するのか 学校によって先生の考え方が違うので、教えるのが難しいのでは	教員数が減る
	地域連携	地域の歴史は引き継がれていくか	学校がなくなる地域がある 地域住民の理解を得る進め方
	組織		
	その他	合同学習できる環境があるか	スクールバスの手配が必要 卒業生の出身校への意識 学校ごとの文化を合わせる必要がある
質問	今の合同学習はどちらのパターンにつなげやすいのか 日常化のレベルや回数は 地域学習は選ぶか、別々か	地域との連携をどうするか 制服はどうなるのか 小学校統合 どの校がくっつくのか(1校か2校か) 学校はどこになるのか バス代は保護者負担か	

その他、意見等
現在の合同学習が予想以上だった・知らなかった 各地域の大事なことを絞る 4校の状況把握を 保護者の交流機会が減少している 今のままで良いのではないか 一貫校設立までの時間(メモリアルタイム)を子どもたちで活用できるように 複式解消・小学校の統合を早く 教育委員会のフォローは？ → 情報発信・SNS利用、 保護者にも明確にわかるように、 保護者の交流の機会 親同士の関係に偏りはあるか？ スポ少の影響があるのか？ → 子と親は別、ととらえている人が多いのではないか 親の接点がない、 交流の機会が減少しドライになっている

第3回ワークショップ アンケート結果(2/1)

参考資料

連番	ふせんや模造紙に表現できなかったこと、あなたが個人的に大事にしたい視点、あなた独自の提案などがあれば教えてください。
1	教育も大事だが、保護者、先生目線でもきちんと話し合いをしてほしい。
2	地域のシンボル(?)だった学校がなくなるので、それをどうフォローしていくことが、大和が1つになる上で大切ではないか?!
3	地域と学校のつながり
4	パターン1かパターン2かについては早めに決断してほしい。 先生方の人事異動にもかかわるので・・・。
5	子どもたちのことを第1に考えると、協働的な学びに向けた取組を早く進めていくことが大切だが、それに伴う教職員の負担が軽減できるよう計画的に進めていけるとよい
6	1番大切なことは、1人で日々の学習をしている子どものことを考えることだと思います。早く、話し合いが進むことを願います。
7	たくさんの課題はあると思います でも、スタートをきっているので、いい方向にさせる! という考え方でスピード感をもって進めていくべきだと思います。
8	①4小が軌道に乗るまでの先生方の確保は融通がきかないのか ②4小合同の場合、スクールバスが必要かと思うが、バス代は親負担or教育委員会負担? どちら
9	小中連携に取り組む最初の試金石となる「やまと学園」については、特例的に、ぜひとも1学年1クラス20人の定数で編成してほしい。
10	子ども第1!! は最初から言われていながら、具体的に進む形が目に見えず不満がありました。4→1再編から目標のやまと学園をゴールとするなら、スピード感をもってしないと、今の子どもたちが「やまと学園の生徒」になれないのでは。とにかく早く複式学級の解消を!! (ここに集まる委員以外の地域の人からも声が大きく上っています。4地区のこだわり(?)があるかもしれませんが、それを心配しては進めない。子どもが「大和の子」となれば、大人の方がわかまりを乗りこえていけると思う。
11	今の小学生が小中一貫のメリットを感じられる 一年でも半年でも早く結論を
12	コミセンと施設一体型小中一貫が別々になれば地域密着がうすれる心配
13	これから通うであろう(通っている)、子ども、子どもの親の意見を取り入れるのは
14	やまと学園になっても教員数のある程度の確保
15	今回のワークショップのように、やまと学園となったあとも話し合いの場を大切にしていきたい、いくとよいと思いました。
16	複式学級はリーダー学習などの良さもありますが、子ども側からみると先生のいない時間(反対の学年への対応)、不公平感を感じる子どももいるので、早く解消できると良いと思う。
17	最小の出来る事がある程度考えて、各地区にて入れるアイデアを出す
18	複式学級はとにかく早期に解消していただきたい。校区の境界を取り払う地域のアタックが必要。
19	4小の合同学習を行う上で何を大切にしていくか
20	理想も大切だが、現実的なこと(場所、先生の人数、校舎、いつ開始、制服・体操服等、通学バス)、できることできないことを知りたい。